

認定制度の審査項目	モデルカリキュラム	対象科目	評価理由	内部評価
I.データ表現とアルゴリズム： データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎（統計数理、線形代数、微分積分）」に加え、AⅠを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6. 数学基礎 1-7. アルゴリズム 2-2. データ表現 2-7. プログラミング基礎	情報基礎（1年） メディアリテラシー（1年） 情報数学（2年） C言語（2年） 応用数学ⅡA（4年） 応用数学ⅡB（4年） データ構造とアルゴリズム（5年）	情報数学、応用数学ⅡA、応用数学ⅡBでは、「数学基礎」について学習している。 データ構造とアルゴリズムでは、「アルゴリズム」について学習している。 情報基礎、メディアリテラシー、情報数学、データ構造とアルゴリズムでは、「データ表現」について学習している。 C言語では、「プログラミング基礎」について学習している。	A
II.AⅠ・データサイエンス基礎： AⅠの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAⅠを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAⅠ基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1. データ駆動型社会とデータサイエンス 1-2. 分析設計 2-1. ビッグデータとデータエンジニアリング 3-1. AIの歴史と応用分野 3-2. AIと社会 3-3. 機械学習の基礎と展望 3-4. 深層学習の基礎と展望 3-9. AIの構築と運用	情報基礎（1年） メディアリテラシー（1年） プログラミング実習（3年）	情報基礎では、「データ駆動型社会とデータサイエンス」について学習している。 プログラミング実習では、「分析設計」について学習している。 情報基礎、メディアリテラシーでは、「ビッグデータとデータエンジニアリング」について学習している。 プログラミング実習では、「AIの歴史と応用分野」、「AIと社会」、「機械学習の基礎と展望」、「深層学習の基礎と展望」、「AIの構築と運用」について学習している。	A
III.AⅠ・データサイエンス実践： 本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AⅠ活用企画・実施・評価」から構成される。	AI・データサイエンス実践（演習や課題解決型学習）＜データ・AI活用企画・実践・評価＞	プログラミング実習（3年） 創造工学（4年）	プログラミング実習では、「AIの学習と推論、評価、再学習」、「AIの開発環境と実行環境」について学習している。 創造工学では、「データ・AI活用のための技術」と「データ・AI活用の事例」について学習している。	A

S：審査項目の観点を上回る成果を達成した。

A：審査項目の観点通りの成果を達成した。

B：審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

C：審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。